

令和7年度 大田区コミュニティ・スクール 実績発表・研修会報告書

2025.12.10

大田区北四丁目複合施設「スマイル大森」

記録 南蒲小学校 教務主幹

【小黒教育長】

様々な課題に対応し、児童を育成するにあたり、地域とともに、地域に支えられながら学校があり続けなければならない。コミュニティ・スクールの意義を理解し、コミュニティ・スクールが充実することを願う。

★学校運営協議会が位置付けられている学校をコミュニティ・スクールという。

【第一部(実績発表)14:00～14:50】 (○発表校 ●講師講評)

・久原小学校 令和四年度より

○年間で継続した支援をボランティアの保護者の方にしていただいている(週に一回以上来ている)

○保護者との連絡調整はコーディネーターが行う

⇒二人で分担(短期ボランティア&12年、長期ボランティア3456年)(学校と地域をつなぐ)

○OPTA広報誌に学校運営協議会に出席している方も載せている

●保護者もどのような活動をするのかが分かる通知をしている

●どのようなことをこどもたちに学ばせたいのかを大人が共有している

・大森第三中学校 平成三年度プレ 令和四年度より

○学校運営協議会の役割を毎年確認している ○出席者それぞれの視点から提案をして会議を進めている

○大人向けの授業(今どきの授業、議論する道徳、外国語)を行っている(コミュニティ・オープンカレッジ)

⇒地域の方に今の学校の授業を知ってもらう、いつでも学校に来てもらう

●「こどもたちの活動を支える」から「学校を核として地域がつながっていく」スクール・コミュニティへ

●地域の課題を解決するためではなく、活動から結果として地域の課題が解決している

●学校運営協議会の委員は、自分が学校の運営に携わっているという自覚がある(自分事としてとらえている)

・雪谷中学校

○PTAと協働で活動している ○学校行事の限定的なYouTube配信をしている

●生徒目線で発信している ●大人の立ち位置、見守り方を考え、明確にし、共有している

●小学校と中学校の連携(小学生からは、一番身近なロールモデル)

【第二部(研修会)15:00～16:00】

(講師)文部科学省CSマイスター 明星大学教育学部特任教授 朝倉美由紀

★おおた教育ビジョンに位置付けられている(大田区の施策)

○導入・推進にどのように関われるか(自分事として参加する学校運営協議会)

・学校運営協議会の会長が協議を進めていくとよい ・年2回程度は教員が協議会に参加する

○学校運営協議会でどのようなことを話すのか

・学校の課題を洗い出し、どのようなことができるかを話し合う(学校課題の解決)

・社会に開かれた教育課程の実現に向けて

⇒最高学年のゴールに向けて、どの学年でどのようなことを学ぶのか

こどもとともに課題を洗い出し、どのようなことができるか計画を話し合う

○どこまで役割を果たすのか

・地域や保護者の願いを叶えるものではない(こどもの成長のサポートとして)

・教員、地域、保護者がそれぞれでやれること、やることを明確に(お互い任せっきりにならないように)

★教員の業務量管理・健康確保措置に関する内容を基本法の方針に含むことが今後求められる

⇒業務の適正化は負担軽減ではない(精選や内容の見直し、委託できることなどを検討)